第 **8** 講　全国的武家政権の確立と衰退

PART2 南北朝の争乱と室町幕府の成立

Chapter 1　南北朝の動乱

目標　鎌倉幕府と室町幕府を一連のものと考えることもあるのはなぜだろう？
南北朝の動乱が長期化したのはなぜだろう？

1　南北朝の対立

① 南北朝の対立→**南北朝時代（1336 ～ 92 年）**

A 〔[1]　　　　　　　　　〕の京における幕府開設（**北朝**）

あ **持明院統**の**光明天皇**を擁立（1336 年）

い 〔[2]　　　　　　　　　〕を制定（**1336 年**）

鎌倉幕府の評定衆であった二階堂是円らへの

施政方針の諮問を 2 項 17 条に記す。

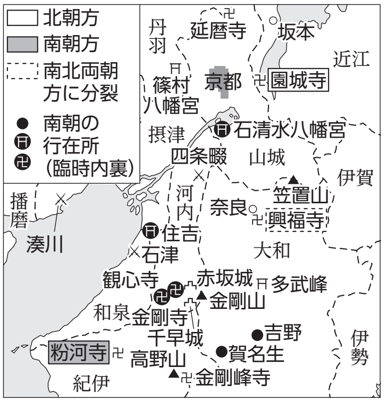
☆**基本法は御成敗式目**で，

以後の追加法は「建武以来追加」という。

う **足利尊氏が征夷大将軍に就任（1338 年）**

弟**直義**との二頭政治を開始

（軍事＝尊氏，行政・司法＝直義）



南北朝時代の畿内要図

B 〔[3]　　　　　　　　　〕の**吉野**入り（南朝）

「三種の神器」を所有し大覚寺統の正統性を主張，独自の元号を発布。

2　動乱の全国化と長期化

① 南朝方の抵抗→奥州・関東・九州などに拠点を置くが常に苦戦

A 諸将の戦死

楠木正成（1336 年，摂津国湊川の戦い），名和長年（1336 年），

北畠顕家（1338 年），新田義貞（1338 年，越前国藤島の戦い）らが次々に戦死。

B 後醍醐天皇の死（1339 年）

義良親王が**後村上天皇**として即位

※後醍醐天皇の菩提を弔うため，

夢窓疎石の勧めを受けた足利尊氏・直義は，京都に天龍寺を造営。

C **北畠親房**の抵抗→顕家の父

常陸国小田城など関東を転戦後，吉野へ帰還。

歴史書『〔4 〕』を後村上天皇に献上し，**南朝の正統性を強調**。

D 楠木正行の戦死（1348年）

河内国四条畷の戦いに敗れ吉野も陥落。

後村上天皇は賀名生へ退き，当地を行在所〔行宮〕とする。

E 征西将軍**懐良親王**の抵抗（1370年代まで）

肥後国の菊池氏と結び九州各地を転戦するが，

幕府の**九州探題今川了俊〔貞世〕**の下向により敗退。

②北朝方の内紛

A 二頭政治の対立

新興武士の要望を汲む新体制樹立を目指す**急進派の足利尊氏**とその執事

〔5 〕が，**漸進派の足利直義**・直冬（直義の養子）との対立を深める。

B 〔6 〕（**1350～52年**）

足利直義による高師直殺害を契機に北朝の二派が武力で衝突。

双方が一時的に南朝と和睦するなどして長期化したが，直義が敗死。

※しかし直冬が1358年の尊氏の死後も**2代将軍義詮**と戦うなど，

南朝勢力を含め離合集散を繰り返した。

③全国化・長期化の背景→1360年代には九州を除き北朝方が圧倒的に有利ではあった

A **惣領制の解体**

嫡子単独相続が一般化し，血縁的結合から**地縁的結合**重視へ変化。

※それにともない分家〔庶子家〕独立の傾向も強くなり，**新興武士の闘争が激化**。

幕府＝北朝に反抗する勢力は，南朝が軍事力を失ってからも利用した。

B 守護大名の成長

北朝方＝幕府方の守護が各地で勢力を拡大。

C 惣〔惣村〕の形成・発展

畿内とその周辺で農民の自治的結合が見られる。

まとめ

鎌倉・室町幕府ともに御成敗式目を基本法としたので，

両者を一連のものとみなす意見もある。

南北朝の動乱は，北朝の内紛や惣領制の解体による全国化で長期化した。

Chapter 2　室町幕府の成立

目標
足利義満の権力の強大さについて知ろう。
室町幕府の経済基盤の不安定さについて知ろう。

1　室町幕府の安定と確立

①**3代将軍**〔1　　　　　　　　〕（在職 1368 ～ 94 年）の権力強化

幼少時には初代管領細川頼之が政務を代行するが追放。斯波義将に交代し実権を確立した。

※1378 年には〔2　　　　　〕に将軍邸**花の御所〔室町殿〕**を造営。

京都の市政権・諸国の段銭徴収権・外交権など朝廷の権限を吸収した。

②**南北朝の合一（1392 年）**

足利義満の斡旋で，**南朝・大覚寺統の後亀山天皇**が京に帰り，**北朝・持明院統**の〔3　　　　　　　　　　〕に三種の神器を譲る。

③**有力守護大名の圧伏**→義満が挑発

1390 年　土岐康行の乱

※美濃・尾張・伊勢３か国の守護を兼ねる土岐氏の一族を討伐。

1391 年　明徳の乱

※西国 11 か国の守護を兼ねる山名氏〔六分一衆〕の一族**山名氏清**を討伐。

1399 年　**応永の乱**

※周防・長門など６か国の守護を兼ねる大内氏の一族**大内義弘**を討伐。

④義満が〔4　　　　　　　　〕に就任（1394 年）

４代義持に将軍職を譲り，公・武の最高権力者として君臨。のち朝廷から准三后の扱いを受け，日本国王として明から冊封されるなど，皇位に肉薄した稀有な存在。

※翌年に引退，出家後は**北山山荘〔北山殿〕**に〔5　　　　　〕を造営。

足利義満

2　室町幕府のしくみ

①中央（京都）

将　　軍　有力守護大名連合の頂点で**公方**ともいう

〔6　　　　　〕将軍の補佐・政務の総括（もとの執事）

※足利氏一門の**三管領（細川・斯波・畠山）**が交替で就任。

侍　　所　京都の警備・刑事裁判

※長官である**所司**には，**四職（赤松・山名・京極・一色）**が交替で就任。

※ほかに政所・問注所や評定衆・引付衆もあった。

②地方

鎌 倉 府　関東8か国＋甲斐国・伊豆国 10 か国（のち陸奥・出羽を加える）の統治

※〔7　　　　　　　　〕は足利尊氏の子**基氏**の子孫が世襲,

〔8　　　　　　　　〕は**上杉氏**が世襲。

京都の幕府と同様の機構を備えていた。

奥州探題　陸奥国の軍事・民政

羽州探題　出羽国の軍事・民政

九州探題　九州の守護大名を統制

守　　護　**守護大名**に成長し幕政を担当

※在京または在鎌倉が原則，領国には守護所を置き**守護代**が支配。

3　室町幕府の経済基盤

①〔9　　　　　　〕

畿内・東海を中心に散在する**幕府直轄の荘園**で，将軍直属の〔10　　　　　　〕が管理。

②〔11　　　　〕・**棟別銭**→もと朝廷の一国平均役

内裏の造営などに際し，守護を通して庶民に臨時課税。のちに定期的な税となる。

③**土倉役〔倉役〕・酒屋役**

都市金融業者の土倉・酒屋に課税，彼らから選ばれた納銭方が徴収にあたった。

④**関銭・津料**

陸上・水上交通にかけられる通行税。

⑤**抽分銭**

日明貿易に課税。輸入品国内売価の 10 分の 1 。

⑥**分一銭**

分一徳政令発布に伴う手数料。

⑦その他

守護・国人・京都五山からの献金など。

まとめ　足利義満は公・武を兼ねた最高権力者となった。

室町幕府の経済基盤は，貨幣の臨時税が多く不安定だった。

第 8 講　PART 2　確認問題

1 征夷大将軍に就任した足利尊氏とともに二頭政治を行ったのはだれか。

① 足利直義　② 足利義詮
③ 足利義持　④ 足利直冬

2 後醍醐天皇の死後，即位した天皇はだれか。

① 亀山天皇　② 後深草天皇
③ 光明天皇　④ 後村上天皇

3 足利尊氏の執事を務めた，急進派の武将はだれか。

① 北畠親房　② 高師直
③ 夢窓疎石　④ 今川了俊

4 1350 年に始まった，足利尊氏・直義両派の内紛を何というか。

① 観応の擾乱　② 中先代の乱
③ 正中の変　④ 元弘の変

5 1392 年，足利義満の斡旋により，三種の神器を譲られた天皇はだれか。

① 後小松天皇　② 後花園天皇
③ 後深草天皇　④ 後亀山天皇

6 1391 年に明徳の乱で滅ぼされた有力守護はだれか。

① 大内義弘　② 赤松満祐
③ 土岐康行　④ 山名氏清

7 足利氏一門の三管領に**あてはまらない**一族はどれか。

① 斯波氏　② 畠山氏
③ 山名氏　④ 細川氏

8 日明貿易を行う商人にかけられた税はどれか。

① 分一銭　② 抽分銭
③ 棟別銭　④ 段銭

第 8 講　PART 2　確認問題 解答

1 解答：①　**足利直義**は軍事を担当した足利尊氏の弟で，行政・司法を担当した。

2 解答：④　義良親王が**後村上天皇**として即位した。

3 解答：②　急進派の**足利尊氏**と高師直は，漸進派の**足利直義**・直冬（直義の養子）と対立を深めた。

4 解答：①　**観応の擾乱**は，足利直義による高師直殺害を契機に起こった。双方が一時的に南朝と和睦するなどして長期化した。

5 解答：①　後小松天皇は，北朝の**持明院統**の天皇。これにより，南北朝が合一された。

6 解答：④　①の大内義弘は 1399 年の**応永の乱**で滅ぼされた。③の土岐康行は 1390 年に滅ぼされた。

7 解答：③　**山名氏**は赤松氏，京極氏，一色氏とともに，侍所の所司を務めた**四職**にあてはまる。

8 解答：②　①の**分一銭**は分一徳政令発布に伴う手数料，③の**棟別銭**と④の**段銭**は内裏の造営などに際して庶民に臨時的にかけられた税である。